

# 点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■120■

まった。

そんな中で前橋に赴任し、久しぶりに走ってみようとぐんまマラソンに申し込んだ。

「ズに脚が動かない。おまけに今年の夏は暑すぎて練習する気にならない日が続いた。10月に入ってやっと涼しくなったので、残り1か月でどこまでできるか分からないうが、週に1、2回のペースで走るようになった。」

残すのは良くないので、最後の1週間は練習を我慢した。大会当日はとても良い天気。沿道の応援の中に知人の顔が見えてうれしくなる。無理せず自分のペースで走ると決めていたので、抜かされても「レースじゃないから」と自分に言い聞かせながら走

ペースを上げて無事に完走することができた。ゴールしてから何人もの知人にお会いした。走っているときは気づかなかったが、同じコースを一緒に走っていたと思うとうれしい。会場には、走り終えて疲れた顔、満足そうな顔などいろいろな表情があふれていた。

11月3日に開催されたぐんまマラソンに参加した。10年前はフルマラソンを3時間40分台で走ることができた。3時間半を切りたいと熱心に練習したのだが、タイムは良くならずむしろ悪くなるばかり。

歳を重ねて体力が衰えてきたのだろうと練習量を増やしたら、かえって膝や足裏をけがするようになってしまった。焦って練習をする。けがをして休む。休むから焦る、の悪循環。やがてエントリーした大会をけがで欠場するようになり、走ることへの情熱も失ってし

## ぐんまマラソン

### 10キロ完走し開放感

もつとも、昨年の春にスキーで転倒して右膝の前十字靭帯を断裂している。手術とリハビリで普段の生活での支障はなくなり、自転車や登山を楽しめるようになったが、ランニングは膝への衝撃

が強く最初は5分走るのがやっと。体の左右のバランスも崩れていてスム

ずつ走る距離を延ばして大会の1週間前には7キロまで走るようになった。本番と同じ10キロを走っておきたかったが、疲れを

感じたが、徐々に体の動きが良くなってきたので、折り返し地点からは生を歩んでいきたい。

肥後秀明（ひご・ひであき）

1969年生まれ

茨城県出身。東京大経済学部卒。92年に日本銀行入行後、金融機構局考査企画課長兼上席考査役、金融機構局考査運営課長兼上席考査役などを歴任。2022年4月から現職。

